

5.3. 吉村 公登氏（日本製鉄株式会社 九州製鉄所総務部長）

「技術力を繋ぎ合わせることで、次の時代に必要とされる変化に対応していく」



吉村 公登（よしむら まさと）

1974年 和歌山県出身。

1997年 新日本製鐵（現日本製鉄）入社。

1997年～2001年、2013年～2016年に八幡製鉄所（現九州製鉄所）勤務。

2023年～ 現職。

「長年培ってきた信頼関係と技術力」

北九州市はものづくり産業を基盤として築き上げられてきました。この財産は一朝一夕ではできないものです。他の人が同じ成果を上げようとしても追いつけないものであり、大きな武器になるものと認識しています。

具体的には明治のころから、官営八幡製鉄所をシンボルとして、地の利も生かしながら築かれています。北九州市は明治、大正、昭和で2度の戦禍を経て、高度経済成長期と、急速に発展してきました。一方で公害という課題にも直面し、誠心誠意それへの対策も行ってきました。これは当社のみならず、他の企業の努力もありますし、住民の皆様のご理解もありました。

このまちの産業は、企業だけが発展させてきたわけではなく、まち全体で発展させてきたものです。簡単にできたものではありません。このことを若い方にも広く正しく発信していくことが重要だと考えます。

これらを経て、築き上げてきた財産がまず信頼関係です。次に、技術力。必ずしも大企業だけが持っているわけではなく、他ではまねできないような技術が市内に集積されていることは事実です。

あるいは、まちとの共生もポイントになります。働く人たちがいかに豊かに暮らせるかも重

要で、そのための環境整備もやってきました。学校、病院など、生活に必要なものが整えられていることが大きな強みなのではないでしょうか。

「連携によってお互いの強みを高めあう」

「産学連携で様々なことをやっていける」このような環境が整っていることは強みでしょう。市内には様々な企業があります。企業間の連携も活発に行われており、異なる企業の横の連携によって、お互いの強みを見出したり、失敗を共有したりしながら高めあっていく環境があると感じています。

また、鉄鋼業だけではなく、機械を作っている会社もあるし、多くの特色のある会社が横につながっている機会、仕組みがあるのが強みです。商工会に加盟している企業も多いと思います。

「次の時代に向けた変化への対応力が肝」

日本製鉄が現在直面しているのは、カーボンニュートラルへのチャレンジです。どの自治体も、国も試行錯誤している段階ですが、それを他の主体に先駆けて解を見つけていく、ビジネスチャンスを作っていくということが求められています。

世の中が大きく成長するための機会でもあり、それをきっちりとらえてまちが変わっていくということが必要だと考えます。リソース（資源）となるのは、もちろんものづくりで培ってきた技術力です。また、住民の皆さんのご理解も必要となります。これらを活かしながら次の時代に対応できるまちを築いていく必要があると感じています。

世の中の変化のスピードが速くなっており、その対応力が必要です。常に変わり続けていくことが重要なのではないのでしょうか。

鉄鋼業界は設備投資を行う場合、長期間の稼働を前提にすることが多く、スピード感をあわせるには難しい局面もありますが、先をとらえていち早く対応する力が必要になってきます。

「持続的に発展する都市とは」

培ってきたものづくり産業を産学連携で「持続的に」発展させるまちになってほしいと思います。

北九州市の特徴として、ものづくり産業があり、都市があり、自然があり、文化があります。これらが物理的に近い距離に、コンパクトに集約されているのです。

これらを融合させたまちづくりを推進していくべきではないのでしょうか。

結果として、北九州市に住んで働きたいと思われるようになります。どんな人も豊かに暮らせるまちを目指していかなければなりません。

技術力に裏付けされた会社で働くことが労働者の誇りになります。そこから遠く離れていないところに居住空間があり、学校や病院などのインフラや自然に触れ合うこともできる。これらをセットにしていけば、周辺から人が集まってきて、もう一度100万人、というようなことになるかもしれません。

「次世代を担う若者にチャレンジを」

人材を引き付ける観点からすると、「次世代

を担う人間」に入ってきてもらうことが重要です。次世代の人間が「継続して」入ってくるようなまちです。

市として、新たなことにチャレンジし続ける、新しいことに取り組んでいるということで惹き付けられるいい循環が生まれてきます。

また、企業としては、BCP（事業継続性）の観点から、いろんなところに分散していることが価値になる局面が出てくるでしょう。太平洋側ではなく、日本海側にあり、瀬戸内海にも直結しているという地理的優位性の中で、ものづくりが行え、輸送ルートも確保できるということは重要で、もっとPRしていくことができれば良いのではないのでしょうか。